

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況(腸管病原菌含)

検出菌 ウイルス	2020年												2021年															
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月 ~4日	7月 ~11日	7月 ~18日	7月 ~25日	8月 ~1日	8月 ~8日	8月 ~15日	8月 ~22日	8月 ~29日	9月 ~5日
カンピロバクター	42	46	55	54	92	177	241	189	97	132	148	125	114	65	137	114	169	115	37	39	30	16	34	18	11	14	8	6
病原性大腸菌	22	34	39	30	24	63	60	76	52	42	41	52	39	25	52	61	55	64	24	13	19	7	16	9	2	10	8	5
腸管出血性大腸菌	1	0	0	0	1	4	0	2	1	2	0	0	1	0	0	0	1	2	0	1	2	0	0	0	0	0	2	0
サルモネラ	4	1	2	4	10	7	14	29	16	10	10	3	6	5	3	1	5	8	4	3	2	1	2	11	1	5	4	0
黄色ブドウ球菌 MSSA	6	20	11	3	9	15	15	20	13	17	18	12	14	16	33	19	39	25	8	4	3	2	0	4	1	5	5	7
黄色ブドウ球菌 MRSA	10	11	17	8	14	14	11	17	9	10	11	9	10	10	15	25	31	13	5	6	3	0	5	5	2	5	2	2
腸炎ピブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	1	1	0	0	7	0	0	0	0	2	1	3	4	4	0	0	0	0	1	0	0	2	0 (1)	3
ロタウイルス	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ノロウイルス	10	14	6	1	0	0	0	2	0	0	0	1	4	5	6	11	13	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

* ()は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。
* 前回のその他の1件増と、その他の3件はアエロモナスでした。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和3年第35週(8月30~9月5日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	3	結核	3			1	1	1		
三類	2	腸管出血性大腸菌感染症	2				1	1		
四類	5	重症熱性血小板減少症候群	1						1	
		日本紅斑熱	2			2				
		レジオネラ症	2					2		
五類	7	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1			1				
		梅毒	6					5	1	
新型インフルエンザ 等感染症	1511	新型コロナウイルス感染症	1511	138	73	125	10	799	120	246

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市 西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町 北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

1 新型コロナウイルス感染症

第35週に799件の報告がありました。前週(1,159件)と比較すると減少傾向で、曜日別の推移においても、全ての曜日で下回っていますが、依然として高い水準です。

デルタ株は感染力が強く、これまで以上に接触機会を下げないと、まん延が止まらない恐れがあります。基本的な感染防止対策や人出入の削減に努め、体調に異変があるときはすぐに受診するなど、感染防止対策を徹底しましょう。

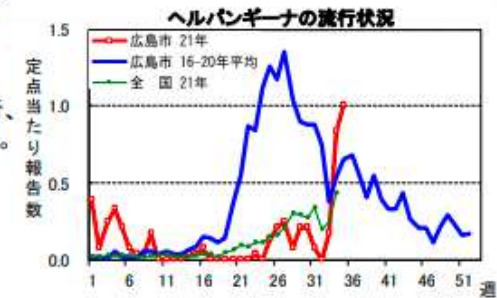
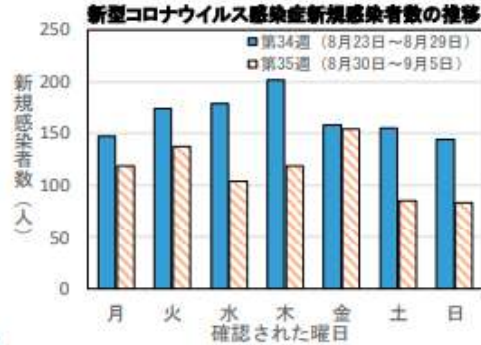
2 ヘルパンギーナ

定点当たり1.00人の報告がありました。ヘルパンギーナは、発熱と口の中の粘膜に現れる水疱性の発しんを特徴とするウイルス性の感染症です。例年、乳幼児を中心に5月頃より増加し始める夏風邪の一種ですが、今年は、前週から増加傾向で推移しています。

感染経路は接触感染を含む糞口感染と飛沫感染です。回復後も2～4週間程度は便中にウイルスが排泄されますので、手洗いの励行、オムツの適切な処理を心がけるなど、感染予防対策を徹底しましょう。

3 梅毒

5件の報告があり、今年の累計は50件(昨年同時期は41件)になりました。



■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号
小児科	インフルエンザ	-	-	0.16		流行性耳下腺炎	-	-	0.14	
小児科	咽頭結核熱	4	0.17	0.52		RSウイルス感染症	29	1.21	2.18	↘
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4	0.17	1.17		急性出血性結膜炎	-	-	0.08	
	感染性胃腸炎	56	2.33	3.85	↗	流行性角結膜炎	3	0.38	0.78	
	水痘	1	0.04	0.24		細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	9	0.38	1.15		無菌性髄膜炎	-	-	0.03	
	伝染性紅斑	-	-	0.28		マイコプラズマ肺炎	-	-	0.20	
	突発性発しん	12	0.50	0.42		クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	24	1.00	0.65	↗	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	0.03	

急増減 ↑ ↓ 前週と比較しておおむね1:2以上の増減

増減 ↗ ↘ 前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減

微増減 ↖ ↕ 前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減

横ばい ⇄ ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■ 全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	1	57	80歳代
3	腸管出血性大腸菌感染症	1	15	30歳代・O26
4	レジオネラ症	2	27	70歳代、80歳代
5	梅毒	5	50	20歳代・3人、30歳代・2人

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査：広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	発症年月日	検査材料	検出病原体
その他の呼吸器疾患	発熱(40.0℃) 気管支炎	4	2021/07/09	咽頭拭い液	RSウイルス
その他の消化器疾患	血便 腹痛	1	2021/07/20	糞便	A型肝炎ウイルス

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載